

日本を愛したイギリスの陶芸家

こしおかれいこ
越岡禮子

郷土史家
アシラネ利用会員

バーナード・リーチ

バーナー・ドリーチは明治20年(1887)香港で生まれた英国人。母が出産と同時に亡くなったため日本にいた母方の祖父母に引きとられた。10歳の時に英国へ帰国して20歳の時にロンドンの美術大学に入学する。小泉八雲の作品に触れ、日本への郷愁にかられている時に留学中の高村光太郎を知り、光太郎の父の光雲への紹介状を手に明治42年に来日した。

リーチは上野桜木町でエッチングの教室を開くかたわら六代尾形乾山けんざんのもとで楽焼を学ぶ。この時期に白樺派とのちに呼ばれる柳宗悦や志賀直哉らと親しくなる。

乾山から七代乾山の継承証書を受け、北京に渡るが、柳宗悦から我孫子での製作を勧められ、大正5年乾山の本窯を譲り受け柳邸内に移築する。すでに我孫子に移住していた志賀や武者小路実篤らとともに充実した日々と友情を育んだ。

我孫子時代のリーチは陶器ばかりでなく、素描や家具のデザインもしている。「用の美」を大切にしていたこれらの作品は生涯の友となる柳の民芸思想に繋がる。

■浜田とセントアイヴィスへ

大正8年5月、窯だけを残して工房が全焼した。七代乾山継承証書をはじめ、製陶のための貴重な資料を失った。幸い窯の中に残った一部の作品は素晴らしく、有名な「楽焼大皿 兎」などが残った。



リーチの落胆は大きく、大正9年親友の浜田庄司を伴い英国の南西部のコーンウォール半島のセントアイヴィスに移り、「リーチ・ポタリー」窯を築き、東洋と西洋の伝統技術の融合した作品を製作する。日本、朝鮮、中国の日用陶器にも関心をもち、当時忘れられつつ

あった英国やドイツの伝統的な日用陶器にも関心をもち、それらの技術を習得した。

リーチは昭和47年まで制作を続け、視力を失っても著述をやめなかった。我孫子時代の自伝を記した「東と西を超えて」は最晩年に執筆されたもので、手賀沼公園に建つ「バーナード・リーチ碑」の写真是かろうじて掲載に間に合った。

リーチの生涯は活発な創作活動と、大英国勲章をはじめ多くの栄誉を得たが、若き日を過ごした我孫子時代は多くの良き友人に恵まれ、自分の才能を生かす道を確認した時期だった。それは手賀沼の美しい自然と白樺派の若き文士たちによって東洋の美を開眼させたともいえるだろう。

昭和54年5月、セントアイヴィスで92歳の生涯を閉じたリーチにとって、日本はとりわけ愛着をもつ第二の祖国だったのではないだろうか。

昭和49年我孫子ロータリークラブが手賀沼公園に建立した「バーナード・リーチ碑」は、リーチが託した巡礼僧の絵と次の碑文が英語で黒みかげ石に刻まれている。

「その時に私は、西と東の結婚を夢見続けてきた。はるか彼方の世界で叫んでいる子供のような声を私は聴いた。いつになったら……いつになったら
バーナード・リーチ」



アビスタ駐車場入口の石碑

発行元：NPO 法人あびこ・シニア・ライフ・ネット（通称アシラネ）

Hp : www.asln1.com

〒270-1122 我孫子市中里 335-1 JR 湖北駅北口スーパーマスタ 3F

Tel/Fax : **04-7197-3308** (火曜～金曜 10:00～16:00)

Mail : asln.digital.ps@gmail.com

理事長 佐々木敏夫 : 04-7182-5719

便利屋事業 樋口邦平 : 090-2254-1559

デジタル塾 塾長 三澤暢子 : 090-3521-0274

事務局長 カラオケ/囲碁 岩崎勇 : 090-9855-6288

広報担当 島田祐子 : 04-7185-8821